(化学系研究員／ポスドクの方などのサンプル)

職 務 経 歴 書

20xx年xx月xx日現在

氏名　○○ ○○

■職務要約

20xx年x月○○大学□□研究室に×年契約で博士研究員として着任し、その間、開発・有機触媒開発に着手した。そして、○○反応において有機触媒を用いた新規反応の開発に成功した。20xx年x月に、独立行政法人○○の研究員として同様の研究に従事。現在、新規触媒の開発および新規反応への応用を行っている。

■職務経歴

|  |
| --- |
| 19xx年xx月～20xx年xx月　　○○大学□□工学研究科応用化学専攻△△研究室 |
| 研究テーマ：ラジカル反応の開発業績：○○学会発表x件、原著論文X報 |  |
| 20xx年xx月～20xx年xx月　／　ラジカル反応の開発 |
| ・有機スズ試薬は、ラジカル反応において非常に有効な試薬である。しかし、高い毒性をもちまた、その除去は非常に困難である。そこで、有機スズ試薬非存在下でのラジカル反応の開発を行い、成功した。・ラジカル反応において、有機触媒存在下でSOMO-enamine活性化を行い、初めてエナンチオ選択的な反応に成功した。この仕事は、○○等で取り上げられ、ラジカルによる新しい活性化手法として注目を集めた。【研究論文概要】* ここに論文テーマと概要の記載をお願いします
* 長くなる場合には、別途研究内容をまとめたものを最後に添付してください。
 |  | 全xx名 |
| 19xx年xx月～20xx年xx月　　独立行政法人○○研究所□□研究室△△グループ |
| 研究テーマ：不斉Metathesis反応の開発業績：○○学会発表x件、原著論文Ｘ報、国際会議発表x件 |  |
| 20xx年xx月～20xx年xx月　／　不斉Metathesis反応の開発 |
| ・新規キラルRuthenium触媒を創製し、Asymmetric Ring-closing MetathesisおよびAsymmetric Ring-opening/cross Metathesisに成功した。・Cross Metathesis 反応において、dimerizationやpolymerizationが問題であった。しかし、アリルアルコールを用いることにより、初めてCross Metathesisの速度論的分割に成功した。【研究論文概要】* ここに論文テーマと概要の記載をお願いします
* 長くなる場合には、別途研究内容をまとめたものを最後に添付してください。
 |  |  |

■活かせる経験・知識・技術

・分析機器：HPLC／GC-MAS／FT-IR／UV-V

・顕微鏡：TEM／SEM

・有機化学、応用化学

■資格など

20xx年xx月　　危険物取扱者甲種取得

20xx年xx月　　普通自動車免許

20xx年xx月　　TOEIC 890点

■自己ＰＲ

＜メンバー育成と研究成果の増進＞
職務の中で特に力を注いでいるのが、年次の浅いメンバーたちの育成と指導です。研究テーマの検討や絞り込み、研究スケジュールの策定を行いました。また、開発部門との連携を促したり、論文執筆においても必要に応じてアドバイスや軌道修正のサポートを行いました。
このように年次を越えてチーム全体で取り組むことで研究のゴールまでの時間を短縮し、成果を早めに得ることにつながりました。チーム全体でレポートや論文の数を増やし、お互いの研究に活かすことで全体の研究精度を向上させることができました。これらの経験を生かし、今後もチームの一員として、またリーダーとして、さらなる成果を生み出すことを目指してまいります。

以上